

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date:2016.3.24

日本語・日本文化専攻長 殿
To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語・日本文化専攻・准教授
氏名 Name	小森 万里
専門分野 Academic Field	日本語教育学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	アカデミック・ライティング教育、アカデミック・ライティングのための文法・ 談話研究
<p>アカデミック・ライティングにおいて、日本語学習者が自らの意見を的確に表現し、読み手を説得することができるようになるために必要なことについて、特に、文法教育の観点から検討すること、また、内容面の観点から、論理性・一貫性のあるレポートを書くためにはどのような条件が必要であるのかについて検討することの2点を行った。</p> <p>前者については、日本語母語話者のアカデミック・ライティングにおいて、引用動詞を用いた「と思われる」「と考えられる」「といえる」が対人的なメタディスコースの観点から、どのようなカテゴリーに入り、読み手への配慮という側面においてどのような機能を果たすのかについて検討し、指導の一案を提示する口頭発表を行った（於 第19回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム）。また、日本語母語話者と日本語非母語話者の意見文において、対人的なメタディスコース（特に、Hedge と Intensifier）の使用状況にどのような違いがあるかを考察し、その結果について口頭発表を行った（於 第25回日本語日本文化教育研究会）。</p> <p>後者については、アカデミック・ライティングにおける一貫性について検討した。具体的には、一貫性を支える条件とは何かを議論し、定義を行った上で、定義から逸脱する誤用の分類と誤用例の提示をし、学習者が文章作成や推敲時に、そして教員が指導や評価時に使用できる一貫性チェックリストを提案した（『日本語/日本語教育研究』第6号 pp.205-220）。また、学習者の作文において、重複（表現や内容が重複しているためにわかりにくいと読み手に思わせる箇所）についても、分析・考察をしているところである。</p>	